

平成 2 5 年度市民活動に関する調査
報告書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目次

調査の概要	2
調査結果 第1部～団体概要	3
調査結果 第2部～かわさき市民活動センターへの期待	8
調査結果 第3部～助成金事業の成果	14
調査票	18

調査の概要

1 調査の目的

この調査により、当センターが市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」で公開している市民活動団体の情報が更新され、多くの市民に市民活動団体について知ってもらうことで、活動に参加するきっかけとなり、市民活動の活性化につながることを目的としています。

また、中間支援組織として、これからの市民活動を推進する事業展開、その方向性を検討するための資料とします。

さらに、助成金を交付された団体には、その後の事業の経過を聴取し、それにより助成金事業自体の評価測定を行いました。

2 実施概要

(1) 調査期間

平成25年8月27日～9月18日

(2) 調査対象

1, 226団体（内訳は下記のとおり、重複団体あり、6月22日時点）

①センター登録団体・・・636団体（ポータルサイト掲載）

②センター把握団体・・・194団体（ポータルサイト掲載）

③市内NPO法人・・・330団体

④助成金交付団体・・・252団体（平成16～24年度まで）

うち不達・解散・活動休止等・・・96団体

回答団体数・・・388団体（回収率34.3%）

(3) 調査方法

調査票の郵送による

3 構成

調査の構成としては、目的で述べたとおり、「団体概要」「センターへの期待」「助成金事業の成果」の3部構成とし、それぞれに関連する設問を設定しました。

また、第1部「団体概要」では、平成21年度および22年度に行った団体実態調査での設問項目と同じ設問を設定し、経年比較ができるようにしました。

調査結果

第 1 部～団体概要

問 1-3. 代表者の性別（n＝387）

	今回	割合	22年度	21年度
男性	230人	59.1%	42.3%	51.0%
女性	159人	40.9%	57.7%	49.0%

※男女2名の共同代表が2団体ありました。

問 1-5. 団体の種別（n＝382）

	今回	割合	22年度	21年度
任意団体	226	59.2%	79.6%	62.4%
NPO法人	110	28.8%	11.1%	33.7%
地縁組織（自治会・町内会）	7	1.8%	0.6%	0%
その他法人	16	4.2%	4.3%	0%
その他	23	6.0%	4.3%	4.0%

問 1-6. 活動分野（n＝380）複数回答あり

	今回	割合	22年度	21年度
1 保健、医療又は福祉の増進を図る活動	139	36.6%	45.4%	64.4%
2 社会教育の推進を図る活動	101	26.6%	24.5%	26.7%
3 まちづくりの推進を図る活動	111	29.2%	17.2%	29.7%
4 観光の振興を図る活動	14	3.7%		
5 農村漁村又は中山間地域の振興を図る活動	8	2.1%		
6 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	123	32.4%	28.8%	35.6%
7 環境の保全を図る活動	75	19.7%	17.2%	16.8%
8 災害救援活動	18	4.7%	3.1%	3.0%
9 地域安全活動	36	9.5%	4.9%	7.9%
10 人権の擁護又は平和の推進を図る活動	45	11.8%	6.7%	12.9%
11 国際協力の活動	38	10.0%	11.7%	16.8%
12 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	26	6.8%	4.3%	5.0%
13 子どもの健全育成を図る活動	150	39.5%	27.6%	39.6%
14 情報化社会の発展を図る活動	23	6.1%	3.1%	7.9%

15 科学技術の振興を図る活動	6	1. 6%	1. 8%	0%
16 経済活動の活性化を図る活動	11	2. 9%	0%	3. 0%
17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	24	6. 3%	0. 6%	11. 9%
18 消費者の保護を図る活動	5	1. 3%	0%	1. 0%
19 上記の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	56	14. 7%	5. 5%	8. 9%

問 1-9. ホームページの更新頻度と連絡先等団体情報の開示

◆更新頻度について（n＝178）

週 1 回以上	21	11. 8%
月 1 回以上	72	40. 4%
年に数回程度	63	35. 4%
それ以下	22	12. 4%

◆連絡先・会則等団体情報の開示について（n＝165）複数回答あり

連絡先を開示	153	92. 7%
会則を開示	57	34. 5%
事業報告書等を開示	51	30. 9%

問 1-10. 役割分担の明確化・交代頻度と組織の運営方針の決定

◆担当制（代表、役員、会計など）について（n＝376）

4 名以上で担当を置いている	251	66. 8%
3 名以下で担当を置いている	72	19. 1%
代表者がすべてを兼務している	36	9. 6%
特に担当を決めていない	17	4. 5%

◆交代頻度について（n＝373）

毎年交代している	32	8. 6%
2 年ごとに交代している	60	16. 1%
不定期（3 年程度）で交代する	125	33. 5%
5 年以上交代していない	93	24. 9%
その他	64	17. 2%

※「その他」の回答としては「必要に応じて」「とくに決めていない」「結成して間がない」などがありました。

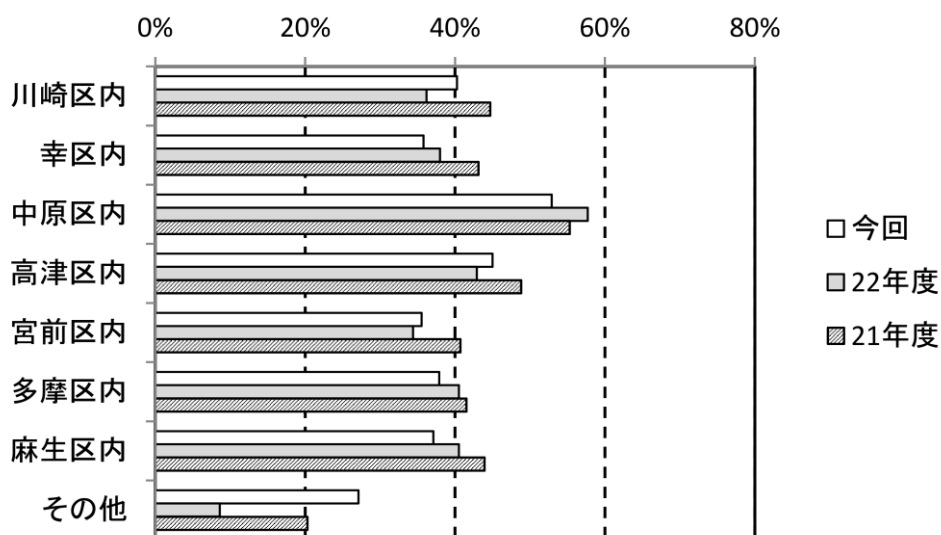
◆組織の運営方針の決定について（n＝374）複数回答あり

総会によって決定している	13	3.5%
役員会などを開催して決定している	201	53.7%
定例会で決定している	195	52.1%
メーリングリストなどのやり取りで決定している	70	18.7%
その他	26	7.0%

※「その他」の回答としては「活動日に話し合いを持っている」「この指とまれ方式で賛同する者で決定している」「運営委員会で決めている」などがありました。

問 1-11. 活動地域（活動している区）（n＝380）複数回答あり

	今回	割合	22年度	21年度
川崎区内	153	40.3%	36.2%	44.7%
幸区内	136	35.8%	38.0%	43.1%
中原区内	201	52.9%	57.7%	55.3%
高津区内	171	45.0%	42.9%	48.8%
宮前区内	135	35.5%	34.4%	40.7%
多摩区内	144	37.9%	40.5%	41.5%
麻生区内	141	37.1%	40.5%	43.9%
その他	103	27.1%	8.6%	20.3%



問 1-12. 活動メンバーの年齢層（n = 365）複数回答あり

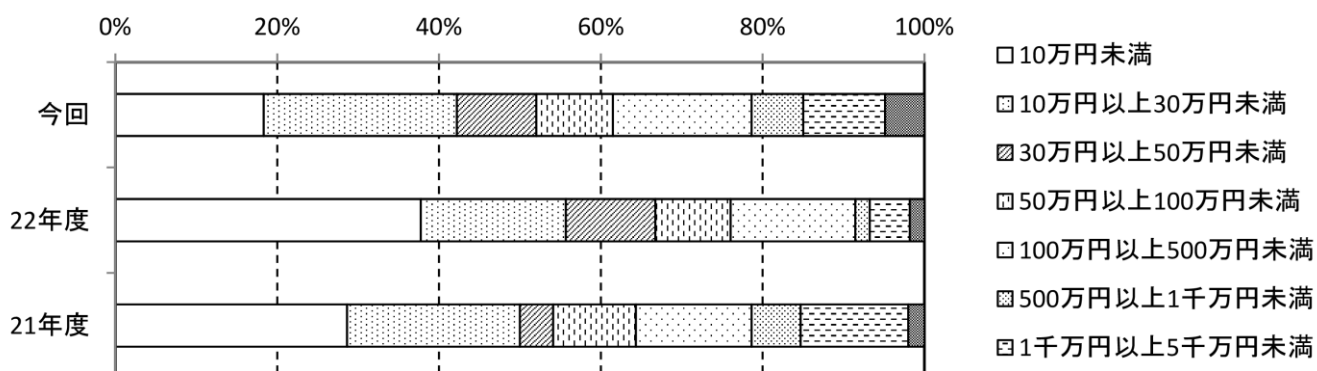
	今回	割合	22年度	21年度
10代	10	2.7%	3.1%	2.2%
20代	19	5.2%	1.9%	1.1%
30代	54	14.8%	10.6%	13.3%
40代	83	22.7%	13.8%	18.9%
50代	125	34.2%	19.4%	22.2%
60代	202	55.3%	42.5%	35.6%
70代	95	26.0%	8.8%	6.7%
80代	15	4.1%		

※21・22年度は単回答でした。

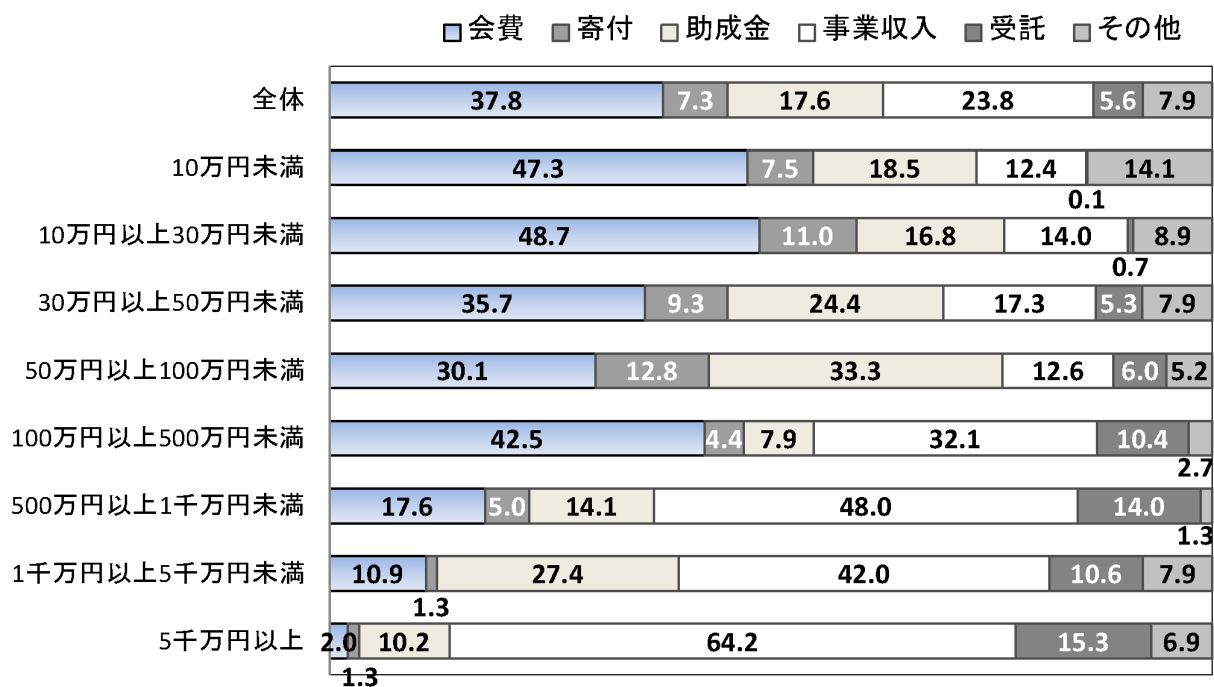
問 1-12 では、活動メンバーの年齢層を聞いています。今回、複数回答も可としたので、過去2回とは単純に比べることはできませんが、70代のメンバーの割合が40代よりも多いという結果になりました。

問 1-13. 年間活動予算（n = 327）

	今回	割合	22年度	21年度
10万円未満	60	18.3%	37.4%	28.6%
10万円以上30万円未満	78	23.9%	17.8%	21.4%
30万円以上50万円未満	32	9.8%	11.0%	4.1%
50万円以上100万円未満	31	9.5%	9.2%	10.2%
100万円以上500万円未満	56	17.1%	15.3%	14.3%
500万円以上1千万円未満	21	6.4%	1.8%	6.1%
1千万円以上5千万円未満	33	10.1%	4.9%	13.3%
5千万円以上	16	4.9%	1.8%	2.0%



問 1-14. 収入源の種類と割合（n = 359）



単位：％

※「その他」の回答としては「繰越金」「借入金」「広告料」「企業協賛金」などがありました。

問 1-13、14 では、団体の予算規模および資金源について聞いています。

予算規模では、過去 2 回の調査に比べ、10 万円未満の団体の割合が初めて 20%を割り、5 千万円以上の団体が 5%ありました。（問 1-13）

また、予算規模と資金源の相関関係では、予算規模が小さな団体は会費や助成金の割合が高く、予算規模が大きな団体ほど、会費収入よりも事業収入や受託事業といった資金源が高くなっています。とくに 5 千万円以上の予算を持つ団体の収入源は 64%が事業収入となっていますが、これには福祉系事業所の介護保険事業収入や障害者自立支援法の福祉サービス事業収入などが多くを占めていると思われます。（問 1-14）

第2部～かわさき市民活動センターへの期待

問 2-1. 当センターの事業の中で、自分たちにとって利用価値が高い、あるいは利用価値が低いと思われる事業（機能）は、次のうちどれですか

◆利用価値が高い事業（機能） n=312		◆利用価値が低い事業（機能） n=121		
1	施設①(会議室・印刷室・フリースペース等)	61.9%	かわさきFM(ラジオ)情報発信	44.6%
2	情報紙「ナンバーゼロ」	45.5%	施設③(ロッカー・レターケース)	37.2%
3	かわさき市民公益活動助成金	37.5%	施設⑤(PCコーナー、公衆無線LAN)	31.4%
4	かわさきボランティア・市民活動フェア	33.7%	市民記者養成講座	24.8%
5	ボランティア募集冊子「ボラナビ」	31.4%	財団ホームページ	22.3%
6	ポータルサイト「応援ナビかわさき」	31.4%	災害ボランティア活動助成	22.3%
7	施設④(市民活動ブース)	27.6%	施設①(会議室・印刷室・フリースペース等)	20.7%
8	神奈川新聞掲載「市民発～地域を作る人・活動」	26.3%	施設④(市民活動ブース)	20.7%
9	市民活動相談	24.7%	施設②(図書コーナー・チラシラック)	19.0%
10	施設②(図書コーナー・チラシラック)	22.4%	NPO会計実務個別相談	19.0%
11	財団ホームページ	21.5%	災害ボランティア養成講座	17.4%
12	市民活動団体パワーアップセミナー	19.6%	ボランティア募集冊子「ボラナビ」	15.7%
13	かわさきFM(ラジオ)情報発信	17.3%	市民活動交流会「ごえんカフェ」	15.7%
14	市民活動団体実態調査	17.3%	ボランティア入門講座(チャレボラ)	14.9%
15	市民活動交流会「ごえんカフェ」	17.0%	かわさき市民公益活動助成金	14.9%
16	施設③(ロッカー・レターケース)	16.3%	神奈川新聞掲載「市民発～地域を作る人・活動」	13.2%
17	市民活動基礎講座	15.4%	ポータルサイト「応援ナビかわさき」	13.2%
18	NPO会計実務個別相談	13.5%	市民活動団体実態調査	13.2%
19	施設⑤(PCコーナー、公衆無線LAN)	13.1%	市民活動基礎講座	12.4%
20	ボランティア入門講座(チャレボラ)	10.6%	市民活動相談	11.6%
21	災害ボランティア活動助成	9.0%	情報紙「ナンバーゼロ」	10.7%
22	災害ボランティア養成講座	7.1%	市民活動団体パワーアップセミナー	10.7%
23	市民記者養成講座	2.9%	かわさきボランティア・市民活動フェア	9.1%

アンケートの対象団体のうち、当センターの施設などを利用していない団体も回答しているという前提があるため、「利用価値が高い」に比べ「利用価値が低い」の有効回答数が1/3と少なくなっています。また、「回答が難しい」「判断できない」などの回答が見受けられ、全体的にも回答数が少なくなっています。

その上で全体的な傾向を見ると、利用価値が「高い」事業の上位が、「低い」では下位になるといった反対称性のある評価が見られます。個々の事業では、活動拠点としてのセンター施設そのものの価値が最も高く、その他ある程度市民団体の目に付きやすい事業が上位を占めています。逆に、施設を利用していない団体にとっては、施設全般の価値は低いので、施設の各機能が総じて価値の低い上位にランクされていました。かわさきFMでの情報発信が価値の低い事業のトップだった理由の多くが、「聞こえないから」だったことから、「利用していない」＝「価値が低い」との判断に至ったものと考えられます。

問 2-2. 前問でお選びになった「利用価値が低い事業」は、どうすれば価値が高くなると思われますか（一部編集済）

【施設としての利用に関すること】

- ・麻生区内で活動する当事者団体なので、皆忙しく、なかなかセンターとの接点がない。
- ・麻生区は川崎市のはずれにあるため、センターまでは遠く利用しにくい。1 か所でなくて、各区にあれば利用しやすい。
- ・活動拠点から遠いこともあり、センター利用する機会も少なく、価値を高める方法は思い当たりません。
- ・センターが沢山あると身近に感じ出入りの人々が多くなり関心度が高くなるのでは？
- ・活動をしている各団体は自分たちの事務所を持っているため利用していない。
- ・川崎区内が拠点のため。
- ・拠点運営について 持ち込みPCを常時使える様にして欲しい。
- ・拠点に印をしましたが、利用者にとっては必要だと思います。
- ・施設は距離的に遠いので利用し難いが、地理的にやむを得ないと思います。
- ・自分たちで積極的に利用または活用しようと心がけること。
- ・自分たちの活動場所からは遠いので。
- ・事務所があるので使う機会がないので、単発で使えるようにしていただけると嬉しいです。
- ・日常的には麻生区から遠く利用できない。
- ・場所が高津区内にあるとよい。
- ・拠点運営は川崎区の教育文化会館印刷室に登録し、利用しているので武蔵小杉まで出向く必要を感じていない。
- ・今まであまり利用していなかったのですが、今後、有効的活用させていただきたいと思います。
- ・施設利用は活動拠点と使用施設の距離があるため。
- ・公衆無線 LAN の利用において、各会議室における受信感度低く有効活用がで

きない。またフリースペースにおいては電源供給がなく不便である。貴所センターにおける、これからの会議（プレゼンテーションなど）や作業（情報検索など）の効率・効果的なあり方を想定すると、ぜひとも実現して欲しい機能です。（利用者負担方式可）

【情報発信に関すること】

- ・音声（FM）ではなく映像（テレビ等）による情報発信の方が効果がある。
- ・FM放送は聞き取りにくいので。
- ・FMを聞く機会がなくよく分からない。
- ・FMでの情報発信ですが、今まで聞いたことがない。内容および放送時間帯などの広報が必要と思います。テレビへの働きかけはいかがでしょうか。
- ・神奈川新聞だと読者が限られてしまうので、それ以外の新聞にも掲載する方法はないか。FMでどんな情報が発信されているか、紙媒体でも知りたい。
- ・施設はほとんど利用していませんが「ナンバーゼロ」は購読しております。
- ・周知していただくと良いと思います
- ・情報があまりない。
- ・情報紙「ナンバーゼロ」の周知を高めるようにする。現在周知度が低いと思います
- ・情報を広く提供してほしい場合、どこへどのように依頼するとよいか、ノウハウを知りたい。
- ・新聞を無料配布。PC無料レンタル。
- ・ターゲットとしたい客層に、情報が届くような仕組みであれば利用したい。
- ・チラシなどをただ並べるのではなく、分野別、時系列的に展示紹介する。
- ・図書数は少ないかもしれませんが、現在ではしかたがないかもしれませんが、変わりに市民団体の発行物（機関誌等）を充実すれば良いと思われます。

- ・きめ細かい情報提供があると良いのではないのでしょうか。
- ・ホームページで紹介、またはホームページを通してアクセス可能にする。
- ・「ボラ・ナビ」の認知度が低く、ボランティアが来てくれる際の情報源になっていない。1年に1冊ではなく、4半期に1冊の発行にする、もしくは、発行部数を増やすなどの手立てをお勧めします。
- ・難聴者は、音声から情報を得るのは大変難しいです。逆に、発信するには有効かもしれませんが一方通行になってしまいう…。
- ・市民活動フェアなどは利用させていただいていますが、自分たち自身でおもに発信・受信等していますので、とくに利用価値云々については考えておりません。
- ・外部（ボランティア活動に関心が薄い人、活動を知らない人）の目に届くと、新規参加者、活動機会が増えてうれしいです。

【研修に関すること】

- ・「人材育成」は必要ですが、「自分たちにとって」とあるので、自分たちの団体には、今のところ必要ないと思われます。

【ごえん楽市（市民活動フェア）に関すること】

- ・市民活動フェアは、いまのところ身内の発表会になっており広がりや緊張感がない。公開プレゼンテーションによるコンテストで賞金がでるのであれば、ある程度打破できる可能性もあるかと。

【助成金制度に関すること】

- ・以前、助成金をいただきましたが、性格上、合致しないことがよく分かりました。
- ・活動助成金を受けやすくする（規定の緩和）。
- ・かわさき市民公益活動助成金は同じ事業ではステップアップしても受給できる年数が限られる。持続している事業につ

いては少ない額でもいいので助成してほしい。また、プレゼンや報告会を簡素化してほしい。

- ・助成金事業のイベントは自動的に掲載・広報してもらえると助かります。
- ・県内全域を対象とした活動を行っているので、「川崎市内での公益活動」に限定された助成の対象になりにくいのは、やむを得ないと思うものの、県の助成はハードルが高くて助成が受けにくい。解決策が難しい行政区割りのほざまで悩む。
- ・民家園のボランティアであるため、助成金については利用できない。また、生田緑地外に出て活動する機会はほぼない。

【その他】

- ・「低い」と断定できる事業はないように思われます。
- ・当会の目的にないので利用しないというだけのため、低事業とただけで価値は大きいと思います。
- ・当団体が使用・利用していないだけで他団体には必要とされているかもしれないので、各団体の活動フォームによるものだと思うのでこのままで良いと思います。
- ・何が低いかは、よくわかりません。私たちが利用していない件は、場所・時間によるもので、価値が低い事業ではないと思います。
- ・評価するまでになっていない（今年からセンターを利用させていただく）。
- ・当会の活動の特殊性もあり、どのように利用できるかがよくわからない。
- ・場所の問題もあるし、ニーズが団体によって違うので全ての団体に価値が高くないでもいいのでは。
- ・他の団体にとっては利用価値があると思いますが、自分たちにとっては自明のことですので利用しただけです。
- ・細々と少人数で活動しているのでそれほど私たちには必要性を感じません。

- ・利用価値が低いのではなく、自分たちの団体が利用していないだけです。当初のメンバーが大幅に入れ替わり、若いメンバーにも参加してもらいこれから活動し利用していきたい。
- ・利用していないので価値がわからない。
- ・利用しているものだけ高い事業にチェックを入れました。利用していないものは高いか低いかわからないので低い事業にチェックは入れませんでした。
- ・利用すべき我々に問題があり、どのように利用するか考えたい。
- ・自分の団体に現在は必要ないという位置づけです。今後利用価値が出てくる可能性もあります。年々活動状況も変化しますので、あくまでも現状です。
- ・選んでいないが、利用することが今のところはないとして低い事業はない。
- ・地理的なこともあり、あまりセンター機能を利用していないので、どれが価値が低いとは判断しかねました。
- ・当法人の活動にとっては必要としていないということです、分かりません。
- ・残念ながら利用頻度が低くて判断できませんでした。利用したものだけ回答です。
- ・可もなく不可もなく。現状の活動の中ではセンターの利用はなし。
- ・芸術・音楽に関連する情報提供や相談窓口があれば、私たちにとって利用価値が高くなると思います。
- ・個別の専門性。
- ・自団体が必要なサービスであると状況になればその価値は必然的に高くなると思います。
- ・高い事業も低い事業も目を通すものは限られていますので回答は難しいです
- ・団体の性格によって利用価値に違いがあると思います。色々な切り口があって良いのでは？
- ・当施設にあるので。
- ・当団体にとって必要としない機能であって、とくに理由はありません。
- ・内容がわからない。各事業周知不足の感あり。
- ・名称が分かりにくく、どのような特色を持った事業なのかよく分かるような PR が欲しい。
- ・よく知らないため、選ばませんでした。
- ・留学生支援になるもの。
- ・利用価値が高い、としたのは参加や利用して分かったことです。従いまして (1) 限りなく初歩的な説明チラシで紹介する、(2) 効果がありそうな団体には、選択して実施や試行を促す、すすめるのも必要と思われます（書面だけでは伝達不足！？）
- ・私たちは「朗読」を趣味の延長ととらえており、「ボランティア」とか「市民活動」という括りにそぐわないので。
- ・私どもの活動の仕方が積極性が乏しい。
- ・我々の団体は災害ボランティアをあまりしていないため、利用価値が低いとした。
- ・社会的にインパクトを与えるような活動支援をして欲しい。

問 2-3. 表にない事業（機能）で、加えてほしいものがあればお書きください（一部編集済）

【施設・設備に関すること】

- ・貸し出し用プロジェクター。
- ・可能なら 9 時半まで時間の延長をして欲しいです。
- ・PC の速度が遅いので更新してもらえるとありがたい。
- ・印刷室を利用することがありますが、カラー印刷ができるとありがたいです。カラーが無理ならせめて赤黒／青黒ができると助かります。
- ・インターネット用パソコンなど機器が古いように思います。1、2 度プロジェクターをお借りできて助かりました。
- ・PowerPoint ですが、パソコンは持参していきましましたので、ともに借りることができたら、なお便利と思いました。機器の更新もあれば、なおありがたいと思います。
- ・会議室の対応、2 室ではいかにも少なすぎで希望の日時に借りることができない。
- ・作業ができる場所が欲しい。
- ・活動をしたくても、活動場所がない。（小さな規模の）施設など必要とする場所の紹介、案内を充実してほしい。
- ・カフェ的な拠点（利用する方、接待する方）が地域にあるとうれしいです。
- ・拠点運営施設として音楽室、もし可能であれば防音とピアノの用意があればありがたいです。
- ・区に分館があったらうれしいけど、難しいですね。もっとネットを利用していくようにします。
- ・企業の施設を貸してもらえるかの情報など。
- ・白黒コピー代を 1 枚 5 円としてほしい。
- ・ブースを 4 年間継続して利用させていただいておりますが、他へ移る場所が見当たらないので、2～3 年継続させていただきたい。
- ・フリースペースが利用できて、とてもあ

りがたく思っていますが、県民活動サポートセンターのフリースペースのように利用時の届出がなくてもよいと利用しやすい。持参のお弁当がフリースペースで食べられるとありがたいです。

- ・フリースペースでの飲食。
- ・ポスターなど貼れる場所が欲しい。広く市民のみなさんにお知らせする情報をもっと発信したいのになかなか難しいです。
- ・リユース PC 貸与（大変助かっています）。
- ・ロッカーについて。1 日～1 週間くらいでコインロッカーとして使えるものを設置してほしい。紙などを大量に入れられるように大型のものを。

【団体運営の支援に関すること】

- ・団体の法人格取得の支援。
- ・SB／CB（ソーシャルビジネス／コミュニティビジネス）支援（単なる助成金ではなく、心構えとして）。

【情報提供に関すること】

- ・市民活動団体（とくに音楽関係）の機材等不要品の情報公開。
- ・いつも活動資金調達に苦労しているので、民間団体の活動資金提供情報が市民活動センターのホームページで提供されるとありがたいです。
- ・外国人向けの情報を提供してくださる場が欲しいです。
- ・かわさき FM でもっと川崎で活動する市民団体を紹介したり、変わりつつある街と人の関係を具体的に PR してもらえる企画。
- ・高齢者に対する情報提供を考えていますが有効な方法を知りたいので、適切な方法など学びたい。
- ・集まり（セミナーなど）を多くの人に知らせたい。情報掲載方法（それも高齢者対象）について効率のよい方法（具体的

な)を学びたい。

- ・既にあるのかもしれませんが、ウェブでホームページの作り方など、IT 関連のコンサルティングをしてくれる団体があると助かります。
- ・諸外国の先進的な NPO 活動が学べる機会の情報提供や視察などのお知らせ。

【参加者の拡大に関すること】

- ・高校、大学へボランティア参加募集の機会があるとうれしいです。
- ・活動のマッチング（場所をもとめている人⇔何かやりたい人）。
- ・ボランティア参加希望者と受け入れたい団体のマッチング機能。
- ・ボランティア入門講座終了後の方々へのフォロー。どこの活動グループもスタッフが不足しがちで、困っていると思います。
- ・社会活動への参加が若者、高齢者に二極化している傾向あり。30～50 代の現役世代から見て、「社会活動とは時間に余裕のある人々がゆったりと自己実現のためにやる」イメージあり。センターには、30～50 代の現役世代への社会活動への参加推進の旗振り役として、1) 社会活動が自分の生活に密着したものであること、2) 会社では得られにくい直接的な体験ができること、3) 職場で培ったノウハウが生かせることなどを強調・広報いただくことを期待します。

【制度の拡充に関すること】

- ・ボランティア活動での保険の充実
- ・市民活動団体（とくに音楽関係）の機材等の購入費貸付制度。
- ・学生向けワークショップの運営に利用できる助成金。
- ・市民活動センターに寄付した場合、税金の優遇制度が適用されるよう運動してください。そして寄付金の用途先が指定できるようになれば、地元での寄付金も集めやすくなると思います。
- ・協働事業を提案する仕組みやニーズ側の受入れのシステムを確立してほしい。
- ・市が有する人材（市民文化大使、市在住の著名人）の紹介、活用の呼びかけ。

【ネットワークに関すること】

- ・各区との連携事業など。
- ・各区役所と連携してみては？
- ・各グループの活動報告会等を活動センターにて PR して欲しいです。
- ・活動団体の紹介や知り合うことができる機会があるとうれしいです。
- ・どんな活動している人がいらっしゃるのか、知りたいです。
- ・活動分野ごとに行う、連携・協力が進むような濃密な場の提供。
- ・ボランティア活動をする者同士で発表し合う場や、地域の方へ公表する場を提供する事業。
- ・各団体の横の連携（コラボレーション）をスムーズに進めることができる仕組み。

第2部では、当センターの利用価値を高めるため、自由記述で既存事業の改善提案や、新規事業のニーズの掘り起こしを行いました。

すでに改善や反映されている機能や事業内容もありますが、とくに施設（ハード）の面では、以前から利用者の要望があるものが多く見られました。また、事業（ソフト）への要望からは、活動の広がりや新規メンバーの募集など、団体の抱える課題が浮き彫りになりました。

第3部～助成金事業の成果（助成金交付団体の方にお答えいただきます。また、すでに交付が終了している助成金事業についてお答えください）

問3-1. 助成金事業は、交付終了後も続けられましたか（n＝69）

目的を達成したので終了した	17	24.6%
助成金に替わる新たな財源がなかったので終了した	4	5.8%
新たな財源を確保し、現在も事業は継続中	48	69.6%

問3-2. 目標とした「地域課題の解決」は達成できましたか（n＝74）

達成できた	27	36.5%
事業は終了したが、達成できなかった	3	4.1%
事業は継続中のため、現在のところ未達成	44	59.5%

問3-3. 新たに気付いた課題はありますか（n＝63）

あった	38	60.3%
なかった	25	39.7%

「あった」と答えた方、それは何ですか（一部編集済）

【人材・財源に関すること】

- ・ボランティアの高齢化。
- ・紙芝居の語り手の育成。
- ・スタッフ不足。
- ・人材の確保。
- ・財源確保。

【事業の発展・拡がりに関すること】

- ・市民主体の活動だが、市民だけでは難しいと感じた。
- ・一般の人に向けて発信していく力。
- ・広報活動の限界を打破する策を再考する。
- ・ピアサポートという言葉自体の認知度の低さ。
- ・1回ではなく継続しなければならないということ。
- ・継続することの難しさ。
- ・助成金（始めること）から自主運営事業（継続すること）への移行と進めざるを得ない。
- ・さらなる受給者の開拓、よりよいプログラム開発。
- ・社会福祉協議会との連携。
- ・設立当初の目的達成のための活動を再検討中。

【助成金事務に関すること】

- ・助成金の事務処理。
- ・申請事業収支計画において支出の見積りが甘かった。

問 3-4. 事業を通じて、新たなメンバーの参加はありましたか（n = 74）

あった	64	86.5%
なかった	10	13.5%

問 3-5. 事業を通じて、理解者や支援者は広がりましたか（n = 74）

広がった	67	90.5%
広がらなかった	7	9.5%

問 3-6. 事業を通じて、新たな協働のパートナーとなる団体は見つかりましたか（n = 73）

見つかった	40	54.8%
見つからなかった	33	45.2%

問 3-7. 事業を通じて、新たな社会資源を開拓できましたか（n = 57）

できた	27	47.4%
できなかった	30	52.6%

問 3-8. 事務局の執行体制は充分でしたか（n = 67）

充分だった	49	73.1%
充分ではなかった	18	26.9%

問 3-9. 助成金が執行体制を見直すきっかけになりましたか（n = 61）

なった	48	78.7%
ならなかった	13	21.3%

問 3-10. 助成金事業の遂行を、周りのスタッフと共有できましたか（n = 71）

できた	67	94.4%
できなかった	4	5.6%

問 3-11. 事前に計画していたスケジュール通りに事業が執行できましたか（n＝72）

できた	61	84.7%
できなかった	11	15.3%

問 3-12. 地域や社会に対してインパクトを与えられましたか（n＝67）

与えられた	56	83.6%
与えられなかった	11	16.4%

問 3-13. その影響によって、地域や社会に「目に見える変化」は起きましたか（n＝66）

起きた	39	59.1%
起きなかった	27	40.9%

問 3-14. 問 3-12 または 13 で「与えられた」「起きた」とお答えの方、その成果を出すために考えた独自のアイデアや工夫点がありましたらお書きください（一部編集済）

【事業の実施に関すること】

- ・与えられるのみの音楽会ではなく、障害児の参加型の活動にしたこと。
- ・これまで市内ではあまり行われていなかったエコツアーを実施。以後、同様の見学ツアーが増えた。
- ・助成金事業が翌年度から川崎市によって予算化され、実行委員会が立ち上がり、開催されました（今年度も開催予定）。助成金事業が盛会だったので、社会的課題であると強く認識された結果だと思います。
- ・利用者の声や意見・要望を聞き、取り上げるよう努力している。作品作りをしたり、講座（単発）を設けたりしている。
- ・活動に関して理解を深め、共感を得ることは、毎年新規メンバーがいるため必要。楽しく活動を引き出すため、ワーキンググループを結成し、自由に創意工夫が折り込めるように、企画をまかせ、定例会の全体意見で修正し、実行するようにしたことと、会員のスキルアップセミナーを取り入れたことです。
- ・子ども向けのおはなし会でも保護者や学校の教職員または施設の職員と一緒に

参加してもらうことで、読み聞かせの楽しさや重要性を認識してもらえた。

- ・地域の課題やそのための活動に住民自身が当事者となって関わるように工夫した。

【他機関との連携に関すること】

- ・地域の小中学校、学童保育等へ活動の案内や報告を郵送することができ、実際支援級の担任の先生方からの問い合わせが増えた。また、川崎市役所の特別支援教育担当者ともつながりを持つことができた。
- ・イベント等に積極的に参加し、グッズ（環境かるた）を使用した。
- ・区役所に直接交渉し協力してもらった

【人的交流に関すること】

- ・市外や県外の参加を積極的に促すことで、人的交流を刺激的にする。
- ・聞き取りなどの調査活動を通して町会や商店街、地域の人とのつながりができ、それを活用できた。
- ・市民活動センターを利用している団体との交流、情報交換、今までよりも広く活

動公開する場を与えてもらいました。

【広報に関すること】

- ・自分の住んでいる地域でどんなことがあったのかを分かるように冊子の内容をまとめた。多くの新聞で報道してもらい、区役所売店などでも取り扱ってもらった。
- ・市民活動センターの市民記者の力をお借りして、神奈川新聞に掲載されたため、問い合わせが増えた。
- ・広報チラシをポスティングしたのですが、チラシを2年間持ち続けて2年後に相談に来られた方がおられた。
- ・メディアに出ることでまずは知ってもら

う。目にしてもらう機会を作る。

- ・活動を始めた当初から、組織内のわずかなメンバーだけの活動に留めていたのでは活動は広がらないし、目標達成はとてできないと考え、広く市民にボランティア参加を呼びかける。そのために活動前には記者会見を行い各紙に取り上げてもらうほか、ナンバーゼロに掲載、ホームページで参加を呼びかける一方で一度でも参加したボランティアには案内ハガキを出しリピーターを組織するなど努力を重ねてきた。先方からオファーのあった団体・企業のからのボランティア参加、資金提供も非常に大きな力となっている。

第3部では、かわさき市民公益活動助成金の成果（アウトカム）を、団体が助成を受けて実施した事業の結果や、団体運営の変化につながったかなどを評価することによって、間接的に検証することを試みました。団体による事業評価は、主観に基づく評価および客観的事実に基づく評価の2つがあります。

問3-1では、助成が終了した後の事業の状況について聞いたところ、現在も事業を継続しているのは70%に達し、25%は目的を達成したため終了していました。懸念されていた、助成金に替わる資金が見つけれなかったために事業を終了したという回答は、5.8%でした。

問3-4から問3-11までは、組織運営に与えた効果について聞きました。

助成金事業によって、新規メンバーや、新規会員につながる支援者や理解者が得られたかどうかについては、ともに約9割が効果を認めていました。（問3-4、3-5）

また、自団体だけでない、事業のパートナーとなる団体や、新たな活動場所など社会資源の開拓につながったかどうかを聞いたところ、ほぼ半分の割合にとどまりました。（問3-6、3-7）

問3-12、3-13では、助成金事業によって地域社会に影響を与えられたかどうかを聞いています。

地域社会へのインパクトでは、84%の団体がそれに対して効果があったことを自覚しています。（問3-12）

また実際に、地域社会が「変わる」きっかけとなった事象があったかどうかについては、60%が「あった」と答えていました。（問3-13）

以上のことから、本助成金の成果として、団体の発展や目的の達成に、ある程度の有効性があることが認められます。

平成25年度市民活動に関する調査 調査票

記入日 月 日

- ・御提出は、9月18日（水）までをお願いします。
- ・活動休止または解散されている団体は、情報を抹消いたしますのでこのまま1枚目のみお送りください。（ただし、平成24年度までに公益活動助成金を受給した団体は、第3部「助成金事業について」の設問も併せてお答えください）
- ・平成25年8月1日現在の情報をお書きください。
- ・個人情報の取り扱いについては別紙を御参照ください。

第1部～団体概要

★が付いた情報はポータルサイト「応援ナビかわさき」で公開いたします

問1-1. 団体名 ★

問1-2. 代表者氏名（変更があった場合は訂正をお願いします） ★

問1-3. 性別（いずれかお選びください） ★

- ☐ 男性 ☐ 女性

問1-4. 記入者氏名

問1-5. 団体の種別（いずれかお選びください） ★

- ☐ 任意団体 ☐ NPO 法人 ☐ 地縁組織（自治会・町内会）
☐ その他法人（社会福祉法人・一般社団法人など） ☐ その他

問1-6. 活動分野（いくつでもお選びください） ★

- ☐ 1 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- ☐ 2 社会教育の推進を図る活動
- ☐ 3 まちづくりの推進を図る活動
- ☐ 4 観光の振興を図る活動
- ☐ 5 農村漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- ☐ 6 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- ☐ 7 環境の保全を図る活動
- ☐ 8 災害救援活動
- ☐ 9 地域安全活動
- ☐ 10 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- ☐ 11 国際協力の活動
- ☐ 12 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- ☐ 13 子どもの健全育成を図る活動
- ☐ 14 情報化社会の発展を図る活動
- ☐ 15 科学技術の振興を図る活動
- ☐ 16 経済活動の活性化を図る活動
- ☐ 17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- ☐ 18 消費者の保護を図る活動
- ☐ 19 上記の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

問 1-7. 団体の最終目標（目的）（記載があった場合は校正をお願いします） ★

問 1-8. 現在の活動内容（記載されていない場合はご記入をお願いします） ★

問 1-9. ホームページの更新頻度と連絡先等団体情報の開示（団体ホームページがある方のみ）

◆URL _____ ★

◆更新頻度について（いずれかお選びください）

☐ 週1回以上 ☐ 月1回以上 ☐ 年に数回程度 ☐ それ以下

◆連絡先・会則・事業報告等団体情報の開示について（いくつでも）

☐ 連絡先を開示 ☐ 会則を開示 ☐ 事業報告書等を開示

問 1-10. 役割分担の明確化・交代頻度と組織の運営方針の決定

◆担当制（代表、役員、会計など）について（いずれかお選びください）

☐ 4名以上で担当を置いている ☐ 3名以下で担当を置いている
☐ 代表者がすべてを兼務している ☐ 特に担当を決めていない

◆交代頻度について（いずれかお選びください）

☐ 毎年交代している ☐ 不定期（3年程度）で交代する
☐ 5年以上交代していない ☐ その他（ ）

◆組織の運営方針の決定について（いくつでも）

☐ 役員会などを開催して決定している ☐ 定例会で決定している
☐ メーリングリストなどのやり取りで決定している
☐ その他（ ）

問 1-11. 活動地域（活動している区）（いくつでも） ★

☐ 川崎区内 ☐ 幸区内 ☐ 中原区内 ☐ 高津区内
☐ 宮前区内 ☐ 多摩区内 ☐ 麻生区内 ☐ その他

問 1-12. 活動メンバーの年齢層（いずれかお選びください） ★

（1・2・3・4・5・6・7・8・9）0代の活動メンバーが中心

問 1-13. 年間活動予算（平成25年度予算） ★

年間 _____ 万円程度

問 1-14. 収入源の種類と割合 ★

種類	割合（合計が10になるように）	} 合計が10 になります
会費		
寄付		
助成金		
事業収入		
受託		
その他（ ）		
合計	10	

第2部～かわさき市民活動センターへの期待

問 2-1. 当センターの事業の中で、自分たちにとって利用価値が高い、あるいは利用価値が低いと思われる事業（機能）は、次のうちどれですか（それぞれいくつでも）

◆利用価値が高い事業（機能） 情報提供 ☐ 情報紙「ナンバーゼロ」 ☐ ボランティア募集冊子「ボラナビ」 ☐ 神奈川新聞掲載「市民発～地域を作る人・活動」 ☐ かわさきFM（ラジオ）情報発信 ☐ ポータルサイト「応援ナビかわさき」 ☐ 財団ホームページ 調査研究 ☐ 市民活動団体実態調査 拠点運営 ☐ 施設①（会議室・印刷室・フリースペース等） ☐ 施設②（図書コーナー・チラシラック） ☐ 施設③（ロッカー・レターケース） ☐ 施設④（市民活動ブース） ☐ 施設⑤（PCコーナー、公衆無線LAN） 交流促進 ☐ かわさきボランティア・市民活動フェア ☐ 市民活動交流会「ごえんカフェ」 人材育成 ☐ ボランティア入門講座（チャレボラ） ☐ 市民活動基礎講座 ☐ 市民活動団体パワーアップセミナー ☐ 災害ボランティア養成講座 ☐ 市民記者養成講座 相談・コンサルティング ☐ 市民活動相談 ☐ NPO会計実務個別相談 助成金事業 ☐ かわさき市民公益活動助成金 ☐ 災害ボランティア活動助成	◆利用価値が低い事業（機能） 情報提供 ☐ 情報紙「ナンバーゼロ」 ☐ ボランティア募集冊子「ボラナビ」 ☐ 神奈川新聞掲載「市民発～地域を作る人・活動」 ☐ かわさきFM（ラジオ）情報発信 ☐ ポータルサイト「応援ナビかわさき」 ☐ 財団ホームページ 調査研究 ☐ 市民活動団体実態調査 拠点運営 ☐ 施設①（会議室・印刷室・フリースペース等） ☐ 施設②（図書コーナー・チラシラック） ☐ 施設③（ロッカー・レターケース） ☐ 施設④（市民活動ブース） ☐ 施設⑤（PCコーナー、公衆無線LAN） 交流促進 ☐ かわさきボランティア・市民活動フェア ☐ 市民活動交流会「ごえんカフェ」 人材育成 ☐ ボランティア入門講座（チャレボラ） ☐ 市民活動基礎講座 ☐ 市民活動団体パワーアップセミナー ☐ 災害ボランティア養成講座 ☐ 市民記者養成講座 相談・コンサルティング ☐ 市民活動相談 ☐ NPO会計実務個別相談 助成金事業 ☐ かわさき市民公益活動助成金 ☐ 災害ボランティア活動助成
--	--

問 2-2. 前問でお選びになった「利用価値が低い事業」は、どうすれば価値が高くなると
思われますか（自由記述）

問 2-3. 表にない事業（機能）で、加えてほしいものがあればお書きください（自由記述）

第3部～助成金事業の成果（助成金交付団体の方にお答えいただけます。また、すでに終了している助成金事業についてお答えください）

問 3-1. 助成金事業は、交付終了後も続けられましたか

- ☐ 目的を達成したので終了した
- ☐ 助成金に替わる新たな財源がなかったので終了した
- ☐ 新たな財源を確保し、現在も事業は継続中

問3-2. 目標とした「地域課題の解決」は達成できましたか

- ☐ 達成できた ☐ 事業は終了したが、達成できなかった
☐ 事業は継続中のため、現在のところ未達成

問 3-3. 新たに気付いた課題はありますか

- ☐ あった → それは何ですか()
- ☐ なかった

問 3-4. 事業を通じて、新たなメンバーの参加はありましたか

- ☐ あった ☐ なかった

問 3-5. 事業を通じて、理解者や支援者は広がりましたか

- ☐ 広がった ☐ 広がらなかった

問 3-6. 事業を通じて、新たな協働のパートナーとなる団体は見つかりましたか

- ☐ 見つかった ☐ 見つからなかった

問 3-7. 事業を通じて、新たな社会資源を開拓できましたか

- ☐
- できた
- ☐
- できなかった

問 3-8. 事務局の執行体制は充分でしたか

- ☐ 充分だった ☐ 充分ではなかった

問 3-9. 助成金の執行体制を見直すきっかけになりましたか

- ☐ なった ☐ ならなかった

問3-10. 助成金事業の遂行を、周りのスタッフと共有できましたか

- ☐ できた ☐ できなかった

問 3-11. 事前に計画していたスケジュール通りに事業が執行できましたか

- ☐ できた ☐ できなかった

問 3-12. 地域や社会に対してインパクトを与えられましたか

- ☐ 与えられた ☐ 与えられなかった

問 3-13. その影響によって、地域や社会に「目に見える変化」はありましたか

- ☐
- 起きた
- ☐
- 起きなかった

問 3-14. 問 3-12 または 13 で「与えられた」「起きた」とお答えの方、その成果を出すために考えた独自のアイデアや工夫点がありましたらお書きください（自由記述）